

2019年7月20日～2019年7月26日

2019年7月30日

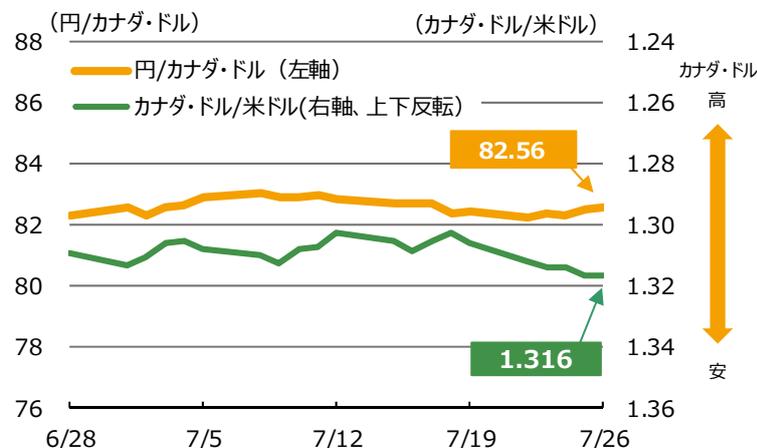
先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りも横ばいになりました。

週前半は、カナダの金利は低下基調で推移していましたが、米国の経済指標が良好であったことなどを背景に米国金利が上昇したため、それに連れてカナダの金利も低下幅を縮めました。また、カナダ・ドルに関しては対米ドルでは下落したものの円安が進行したため、対円では横ばいになりました。

カナダ・ドル 為替推移

(2019年6月28日～2019年7月26日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

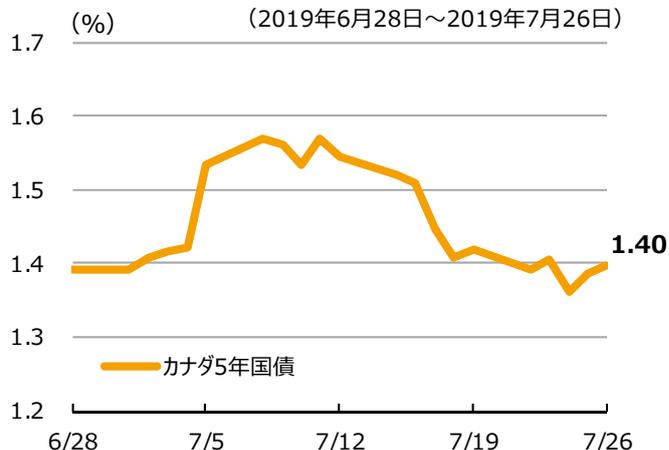
今週の見通し

今週、カナダではGDP（国内総生産）、貿易収支の発表が予定されています。米国では、FOMC（米国連邦公開市場委員会）の開催が予定されており、0.25%ポイントの利下げの見方が優勢となっています。利下げ幅や今後の金融政策についてどのような見通しが発表されるかに注目が集まります。

米国が利下げに踏み切ることが想定され、ECB（欧州中央銀行）も将来の利下げを示唆するなかで、各国中銀は金融緩和へ転換する公算が強まってきています。カナダに関してはファンダメンタルズが堅固となっており、利下げの見方は強まっていないため、欧米との金融政策の方向性が異なっていることは、引き続きカナダの通貨、金利を下支えすると考えられます。

カナダ 金利推移

(2019年6月28日～2019年7月26日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。